



今年は2月8日が本選でした。司会が注意をしなくとも、発表前の会場はしんと静まりかえります。観衆の生徒全員が、代表生徒がどのような気持ちで、どのような努力をしてそこに立っているかを十分にわかっています。選ばれた18人の生徒が順番にスピーチをしていきますが、ひとりひとりに割れるような拍手喝采が与えられます。声が大きければ伝わるわけではない。技巧が多すぎてもだめです。どのように表現すれば聞く人の心に響くスピーチになるか。感情を爆発させるのではなく、コントロールしながら、パフォーマンスも自然にできるように、ナチュラルスピードで表現できるように、毎日毎日CDを繰り返し聞いて何度も練習を重ねた結果得た拍手なのです。

田代 淳一

たしろ じゅんいち

茗溪学園中学校高等学校 教務部長・教員（化学）



茗溪学園では前向きで明るく逞しく積極的な青年が育っています。

「有名大学に行きたいから勉強する」のではなく、「中学・高校時代にいろいろな事に挑戦し、失敗し、考え、自分を探して、自分で自分の将来をみつけ、自分で歩いていく。その方向が地球を救い、人類の未来を拓く方向であってほしい。」そう考え、支援するのが茗溪学園の教員の役割です。

海外生・帰国生が自分の力で自分の未来を切り拓いてきた経験はここで開花します。これまでたくさんの帰国生が、夢を追いながら進学していく姿を見て応援してきました。

日本人には伝統的に感情を抑えて話をする習慣があります。この壁を越えていかないと豊かなデリバリーを含むスピーチにはなりません。普段はまったく目立たない控えめの生徒が、このコンテストを境に見違えるように積極的になることがよくあります。本選で観衆の生徒たちがびっくりし、その勇気と努力に大喝采する場面が毎年繰り返されています。内面的に深いものを持っていてもそれを表現する勇気ときっかけを持たなかった生徒が、ひとつのスピーチに全力を注いで表現できたとき、その壁を越えられるようです。

また、初めてこのような体験をすることを生徒たちも楽しんでます。以前、寮生のS君は寮で寮生同士で楽しんで練習しているうちに3つともスピーチを覚えてしまいました。予選の前に担当教師に「先生、どのスピーチで出しましょうか」と相談に来たそうです。S君は無口で目立たないラグビー部員でもありましたが、このコンテストは彼の転機のひとつとなったようです。東京大学理科Ⅲ類に進学しました。

たかが校内英語暗誦大会ですが、この取り組みに全力を尽くさせることで生徒は実に多くのSkillを学んでいきます。自分の言葉を上滑りでなくしっかり伝えるコツを身につけていきます。基本的には、どの生徒も自己表現したいという欲求を持っています。その欲求をどのような努力をしていけば満たされるのか。そういう、生き方の大事なコツも学んでいける取り組みなのです。

茗溪学園中学校高等学校

〒305-8502 茨城県つくば市稲荷前 1-1

TEL. 029(851)6611 (代) FAX. 029(851)5455

www.meikei.ac.jp



自分の意見を相手に伝えるスキルを身につけさせるためのトレーニング・プログラムとしての暗誦大会の紹介です。

トレーニングの第一歩は「まねる」事です。表現する内容は暗誦して、表現する技術、自分の意見や感情を相手にどう伝えれば分かってもらえるかの練習です。その練習を一人ではなく多くの人の前で行うことにより、より多くの工夫が必要になり、多様なスキルが身につきます。それが暗誦大会です。

高校1年生での暗誦の次のステップは、発表する内容の自分の意見を自分自身で纏め上げることです。それが、以前紹介していただいた高校2年生必修の卒業論文なのですね。茗溪学園でのスキルのトレーニングのステップが、随分ははっきりしてきました。

田代先生。原稿書き大変でしょうが、皆のために、がんばってください！